

里地里山とは

里地里山とは、奥山と都市の間に位置し、集落とそれを取り巻く二次林、それらと混在する農地、ため池、草原等で構成される地域概念です。農林業などともなう、さまざまな人間の働きかけを通じて環境が形成・維持されてきました。



里地里山はメダカやカエル、カタクリなど、さまざまな生きものを育んでおり、そのなかには絶滅のおそれのある種（希少種）が多く含まれています。たとえば、全国の希少種の集中分布地域の5割以上が里地里山にあたります（右図）。また、身近な自然とのふれあいの場、環境学習のフィールドとしても大切です（右頁下）。

しかし、近年は薪や炭がほとんど作られなくなり、二次林（雑木林）の経済的な価値がほとんどなくなっています。さらに、農山村では過疎化のために手入れがなされなくなり、一方、都市近郊では開発が進むなど、里地里山の質の低下や消失が目立っています。

このため、平成14年3月に策定された「新・生物多様性国家戦略」では、わが国の生物多様性の3つの危機の一つに里地里山の危機を位置づけ、重点的に取り組むこととしています。

里地里山希少種集中分布図



里地里山（メッシュ分析による概略分布）
希少種の集中分布地域
希少種の集中分布地域のうち里地里山

データ出典：自然環境保全基礎調査、動物分布調査（環境省）

ふれあい活動団体分布図



里地里山活動フィールド（1,023地点）

データ出典：環境省及び（財）日本自然保護協会の調査より

里地里山の全国分布

里地里山（二次林や農地を主体とした地域）は国土の約4割を占めています。里地里山はその骨格となる二次林のタイプによって5タイプに分類され、それを基に6ブロックに区分されます。

- ミズナラ林タイプ
- コナラ林タイプ
- アカマツ林タイプ
- シイ・カシ萌芽林タイプ
- その他（シラカンパ等）

ミズナラ二次林を中心とした里地里山

放置すると、やがてブナなどの自然林に代わっていく。



コナラ二次林を中心とした西日本の里地里山

人口密度が低く、雪のやや少ないところではタケの繁茂が目立つ。



シイ・カシ萌芽林を中心とした里地里山

タケが繁茂しなければ、やがてシイ・カシの自然林に移行する。



シラカンパ二次林などを中心とした里地里山

放置すると、やがて自然林に代わっていく。



コナラ二次林を中心とした東日本の里地里山

人口が密集していて開発が多く、タケ・ササの繁茂が目立つ。



アカマツ二次林を中心とした里地里山

人口が密集しているが、ため池なども多く、希少種も多い。開発やマツ枯れ、タケの繁茂の問題がある。

